

マタイとルカにおける主の祈りの文脈の違い

マタイとルカの福音書にはどちらも主の祈りがありますが、その文脈は大きく異なります。

マタイにおける主の祈り:

- マタイでは、主の祈りは山上の垂訓の中で教えられています。[1]
- 山上の垂訓は、イエスが弟子たちに与えた倫理的な教えを集めたもので、その中で主の祈りは「異邦人のように」祈るのではなく、「このように祈りなさい」という文脈で提示されています。[1]
- マタイにおける主の祈りの文脈は、**偽善者**との対比で理解する必要があります。[1] 偽善者は人に見せるために施し、祈り、断食を行います。イエスは隠れたところで見ておられる父に祈るようにと教えています。[1]
- 主の祈りは、私たちに必要なもののリストであり、神は私たちが求める前から必要なものをご存知であるということが強調されています。[1]
- マタイにおける主の祈りは、**神の義**を求めることを強調しています。[2] この神の義は、哀れみ深い神の性質を反映しており、特に人の罪を赦すことに表れています。[2]
- 5章後半では、パリサイ人の義に勝るものとして、殺すな、姦淫するな、などの律法の教えが挙げられますが、その後の誓い、復讐、隣人愛、敵への愛に関する教えは、すべて**哀れみ**に関するものであり、天の父が哀れみ深い方であることを示しています。[2]
- マタイにおける主の祈りの文脈では、**赦し**が重要なテーマとして強調されています。[2] 天の国に入る人々の義の中でも、悔い改める者は赦されるということが強調されています。[2]
- 7章では、「自分を裁く基準で隣人を裁く」という教えは、兄弟の罪を赦すことの別の表現として理解できます。[2]
- 偽善者はこの世のものを求めますが、主の祈りは**天の国とその義**を求めるべきであることを示しています。[2]

ルカにおける主の祈り:

- ルカでは、弟子たちが「ヨハネが弟子たちに教えたように、私たちにも祈りを教えてください」とイエスに頼んだことがきっかけで、主の祈りが教えられています。[3]
- ルカにおける主の祈りは、「求めるならば与えられる」という教えと関連付けられています。[3]
- ルカにおける主の祈りは、**聖霊**を受けることを求める祈りとして理解できます。[3] ルカ福音書では、聖霊と悪霊/汚れが中心的なテーマとなっており、主の祈りは聖霊が与えられることを求める祈りとして位置づけられています。[3]
- ルカにおける主の祈りの文脈では、**悪霊を追い出す**というテーマが重要です。[3] イエスは、悪霊を追い出すことができるなら神の国が来ていると言っています。[3]
- ルカにおける主の祈りでは、「御言葉を聞くこと」、「聖霊が与えられること」、「悪霊が追い出されること」が重要な要素となっています。[3]

- 洗礼者ヨハネは、「マムシの子ら」である悪と戦う人であり、聖霊に満たされた人でした。[3] ヨハネは、悔い改めて聖霊によるバプテスマを受けることを教え、神の国の到来を告げ知らせました。[3]
- 弟子たちは、元々はヨハネの弟子であったことから、彼らも悪の働きに打ち勝つために聖霊による清めを求めていたと考えられます。[3]
- ルカにおける主の祈りは、**悪魔の試みから救われるための祈り**として理解することができます。[4]
- ルカにおける主の祈りでは、「御心が行われますように」という部分が、聖霊が与えられることによって実現するということを示唆しています。[4]
- ルカ18章には、正しい裁きを求める不正な裁判官の話と、「憐れんでください」と祈る取税人の話が出てきます。[4] これらの話は、神の御心が行われること、すなわち憐れみと聖霊が与えられることと関連付けられています。[4]
- ローマ書8章では、聖霊の働きについて詳しく述べられており、ルカにおける主の祈りが聞かれるために必要なのは聖霊であることが示唆されています。[4]

結論:

マタイとルカにおける主の祈りは、どちらも重要な教えを含んでいますが、その文脈は大きく異なります。マタイにおける主の祈りは、偽善者との対比で理解され、神の義を求めること、特に赦しを強調しています。一方、ルカにおける主の祈りは、聖霊を受けることを求める祈りであり、悪霊から救われること、御言葉に従うこと、神の御心が行われることを強調しています。

ルカによる福音書における主の祈りの文脈と意味

ルカによる福音書における主の祈りは、弟子たちの 요청によってイエスが祈りの仕方を教える場面で登場します [1]。弟子たちは「ヨハネが弟子たちに教えたように、私たちにも祈りを教えてください」とイエスに頼みます [1]。このことから、ルカにおける主の祈りは、ヨハネの弟子であった弟子たちが、イエスにも祈りを教えてほしいと求めた結果として与えられたものであることが分かります。

ルカにおける主の祈りの特徴

ルカによる福音書における主の祈りは、マタイによる福音書のものと比べて、以下の点が特徴的です。

- **より簡潔である**
- 「御心が天に行われるごとく、地にも行われますように」という文言がない
- 「試みに会わせないでください。悪から救ってください」という文言がない

これらの違いは、ルカによる福音書が持つ独特なテーマと関連しています。

聖霊と悪霊、清さと汚れ

ルカによる福音書では、**聖霊と悪霊、清さと汚れ**という対比が重要なテーマとして繰り返し登場します [1]。イエスは聖霊によって悪霊を追い出し、人々を清めます。弟子たちはイエスに倣い、聖霊の力によって悪霊と戦い、神の御心を実現することを目指します。

聖霊の働きによる祈りの実現

ルカによる福音書では、主の祈りを教えた後、イエスは「求める者は聖霊を与えられる」と語っています [1]。また、ルカの福音書には、悪霊を追い出すイエスの奇跡や、聖霊に満たされた人々の話が数多く記されています [1]。これらのことから、ルカにおける主の祈りは、**聖霊の力によって神の御心の実現し、私たちが日々の生活において神の助けと導きを受けることができるように**という願いを込めた祈りとして解釈できます [1, 2]。

主の祈りの文脈

ルカによる福音書における主の祈りの前には、マルタとマリアの物語が登場します [1]。マルタはイエスをもてなすために忙しく働きますが、マリアはイエスの足もとに座って御言葉を聞いています。イエスはマリアを褒め、御言葉を聞くことの大切さを説きます [1]。

主の祈りの後には、悪霊を追い出す話と、御言葉を聞いて守ることの大切さを説く話が続きます [1]。イエスは悪霊を追い出すことで神の国の到来を示し、御言葉を聞いて守ることによって真の祝福が得られると教えます。

主の祈りの意味

これらの文脈を踏まえると、ルカによる福音書における主の祈りは、**悪霊の働きに打ち勝ち、聖霊の力によって神の御心を実現し、御言葉に従って生きる**ことを求める祈りであると言えます。弟子たちはヨハネからバプテスマを受け、悔い改めを促されましたが、さらなる導きを求めてイエスに祈りを教えてほしいと頼んだのです。イエスは、**聖霊を受けることによって真の清めと力を得、神の御心を実現できる**ことを主の祈りを通して弟子たちに教えたと言えるでしょう。

結論

ルカによる福音書における主の祈りは、聖霊と悪霊、清さと汚れという対比を背景に、聖霊の力によって神の御心の実現し、私たちが日々の生活において神の助けと導きを受けることができるようにという願いを込めた祈りです。